

転倒による頭部外傷や脳損傷等に係る労災軽減・防止に向けた労働者死傷病報告の活用について

独立行政法人労働者健康安全機構
労働安全衛生総合研究所

<研究の背景>

労働災害の死亡に休業4日以上を負傷を加えた労働災害の多発傾向が懸念されてきた建設業や製造業は減少向にあります。その方で、第三次産業や陸上貨物運送事業では増加傾向です。また、毎年多くの頭部外傷や脳損傷等に関連する労働災害が発生しており、作業者が転倒時に頭部を強打して重篤な災害に至る場合があります。このような頭部保護のため「墜落・転落」用と「飛来・落下」用の保護帽は開発され建設業や製造業等を初めとする様々な現場で広く利用されています。しかし、第三次産業や陸上貨物運送事業などでは未だ保護帽が十分普及していないのが現状です。

2020年の事故の型別死傷者数の割合をみると、転倒が最も多く約3割を占め、転倒災害を重点的に対策することが必要です。前述したように頭部を強打して重篤な災害は転倒に起因する災害であり、第三次産業や陸上貨物運送事業では転倒件数が毎年上昇傾向にあります。滑って転倒や躓いて転倒など転倒時の行動や後方、前方あるいは側方の転倒方向、転倒時の傷病など発生状況については実態が十分に把握されていません。そこで、転倒災害の実態や特徴を明らかにし、本研究の結果を現行の構造規格において「墜落・転落」用と「飛来・落下」用に限定されている保護帽の種類だけでなく「転倒」用の保護帽の改良と普及促進に繋げることも重要と考えます。

本研究では、建設業や製造業、及び第三次産業や陸上貨物運送事業などで発生している転倒による頭部外傷や脳損傷等の軽減する要因を探り、転倒に起因する頭部の労働災害の防止を図る必要があります。

<研究の目的>

本研究では、労働者の頭部外傷や脳損傷等の労災軽減と防止を目的に、2021年において業務上転倒によって頭部外傷や脳損傷等として申請された労働者死傷病報告を対象に、労働者の頭部外傷や脳損傷等に関連する工学的及び人的要因について総合的な分析を行い、現状では十分解明されていない労働者の頭部外傷や脳損傷等に関与した要因を明らかにしていきます。

<研究の方法>

対象とする資料は、業務上疾病発生状況等調査の元データである労働者死傷病報告です。労働者死傷病報告は、労働災害が発生した際に事業者から労働基準監督署に提出され、それを厚生労働省が収集している資料です。これらに係る労働者死傷病報告の複写を厚生労働省労働基準局より労働安全衛生総合研究所労働災害調査分析センターに収集し、記載内容を個人情報特定できない統計処理が可能となるように数値化しデータベースを構築します。構築したデータベースを利用して、転倒時の頭部外傷や脳損傷に係る典型災害事例の解明と転倒時の頭部外傷や脳損傷に係る労働災害発生原因について統計的に解析を行います。

<倫理的配慮>

本研究は当研究所の研究倫理審査委員会によって審査され、承認されています(通知番号 R4-安6)。複写された関係書類は当研究所の労働災害調査分析センターにおいて鍵がかかり入室制限された部屋にて保管し、外部への持ち出しは厳禁とします。電子化した情報も、研究所等の入室制限された部屋に設置された特定のパソコンで取り扱います。また、研究期間終了 10年後には、研究データ(紙媒体・電子媒体)は情報漏洩が生じない方法にて廃棄します。本研究のデータや成果は研究目的以外には使用されることはありません。

<研究成果の活用>

本研究成果は、厚生労働省に報告します。また、将来の労働災害防止のために、学術集会、学術専門誌、雑誌、インターネットなどにて公表することもあります。これらの成果は、いずれも集計データとして取り扱うため、個人や事業場が特定される恐れはありません。

<ご自身又はご家族の事案が本研究に使われている可能性のある場合>

2021年の労働者死傷病報告において、ご自身やご家族の事案が業務上転倒による頭部外傷や脳損傷等として記録されている可能性があり、上記のような使用をご了承いただけない場合には、以下まで遠慮なくご連絡ください。

ご本人またはご家族であることを確認させていただいてから、該当する事案を研究対象から削除させていただきます。なお、このようなご請求をされても、何ら不利な取扱いを受けることはありません。

ご不明な点等ございましたら、以下までご連絡下さるよう、お願い申し上げます。

連絡先

〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-4-6

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所

労働災害調査分析センター 菅 知絵美

電話: 042-491-4512 (内線 322)

ファクス: 042-491-7846

電子メール: kan-chiemi@s.jniosh.johas.go.jp